

——高校も、大学も、都会のような働き口もない、ときがわ町。

町にない。ならば、新しく作ってしまおう。

ときがわ町で、関根さんのもとで育ったミニ起業家たちは、

都会のような働き口がない町で、仕事を生み出す「起業」をした。

本屋がないから、本屋を作り出してしまった。

そしてついに、「大学」まで作り出してしまった。

ミニ起業家たちには、新しく芽を出させる力がある。

彼らにとって、「ない」ことは土壌であり、魅力であるのだ。

「起業」という選択肢の提供は、

「ときがわ町の直面する現実」を乗り越えていける、

ひとつの解決策では、ないだろうか。

「小さく始めて、大きくせずに、長く続ける」。

プライベートと仕事を両立させる者たちが築き上げた、この考え。

それは、ほかの起業セミナーにはない、一点突破できる強みである。

「関根さん×ときがわ町」だからこそできた、

「老若男女、だれでも、新しいスタートができる町」。

そう、この町には、誰しものが起業家になれる環境がある。

でも、起業には、不安がつきもの。

大丈夫。この町には、仲間がいる。先輩がいる。

そして、なんといつても心強い、お父さん、がいる。

若者よ、起業もありだ。



モヤモヤしているなら、まず一歩！  
「行動」すれば、何かが変わる。

